

地域とともに歩むリハビリテーション医療の実践

—中伊豆リハビリテーションセンター 地域貢献室の取り組み—

農協共済 中伊豆リハビリテーションセンター 地域貢献室 室長(兼) 地域連携推進部 部長 宮島 嘉津雄 PT

医療資源に限りある伊豆半島の地理的特性

地域の健康増進・介護予防への貢献は使命

中伊豆リハビリテーションセンター(110床 全床回りハ病床・入院料1)は、伊豆半島の中央部に位置し、1973年開設以来地域のリハビリテーション医療の中核を担う施設として、長年にわたり患者様の生活再建と社会復帰を支援してきた(写真1)。当センターは、単に院内でのリハビリテーション医療を提供するだけでなく、地域の健康増進と介護予防に貢献することを重要な使命と位置づけている。特に、伊豆半島という地理的特性から、医療資源や専門職が限られる中で、効果的に地域リハビリテーション機能を向上させるかが重要な課題となっている。

「地域貢献室」をセンター内に設立

このような背景のもと、当センターでは「地域貢献室」を設立した。地域貢献室は、院内完結型の医療から地域の健康を支える活動へと視野を広げ、地域住民や関係機関との連携を強化する組織として機能している。回復期リハビリテーション病棟で培った専門的知識と技術を、退院後の患者様だけでなく、まだ医療や介護を必要としていない地域住民にも還元し、予防的な視点から健康づくりを支援している。

地域貢献室の活動内容は多岐にわたる。第一に、地域支援事業への積極的な参加である。市町村が主催する介護予防教室や健康教室に専門職を講師として派遣し、フレイル予防、認知症予防、誤嚥性肺炎予防など、地域住民のニーズに応じた実践的なプログラムを提供している。

第二に、行政との連携による事業の企画・検討・実行である。市町村の健康福祉部門と協働し、地域の健康課題を分析し、その解決に向けた具体的な事業を企画している。



写真1 中伊豆リハビリテーションセンター

第三に、静岡県より委託を受け、圏域の地域リハビリテーション広域支援センターおよび高次脳機能障害支援拠点機関としての役割を担っている。各種研修会を企画・開催し(写真2)、参加者同士の情報交換やネットワーク構築の場としても機能させ、地域リハビリテーション従事者のコミュニティ形成にも寄与している。

最近のトピックス：一次予防活動に注力

近年、地域貢献室では特に一次予防活動に注力している。実践例の一つとして、シルバー人材センターへの支援が挙げられる。高齢者の就労意欲は年々高まっているが、加齢に伴う身体機能の低下により、就労期間が限定されてしまうケースも少なくない。当センターでは、シルバー人材センターと連携し、登録会員に対して就労に必要な身体機能や体組成の評価(写真3)、危険回避行動を促すための情報提供(写真4)、身体機能の維持・向上を目的とした体操プログラムの提供、作業姿勢の改善指導、疲労回復のためのセルフケア方法の指導などを実施している。会員の方々が健康を維持しながら長く働き続けることができる環境づくりを支援し、就労を通じた社会参加により、経済的な側面だけでなく、生きがいの創出や認知機能の維持

にも寄与している。



写真2 地域リハビリテーション広域支援センターでの介護職員向け研修



写真3
シルバー人材
センターにおける
身体機能測定



写真4 シルバー人材センター登録会員向け研修会



写真5
運転寿命
延伸に向け
た講演会。
交通事故
総合分析
センター
(ITARDA)
資料を参考
に高齢者の
運転特徴を
住民に説明

害の予防にとどまらず、高齢者が心身ともに健やかで活動的な生活を続け、社会の中で役割を果たし続けられるよう支援するという、一次予防の本質的な理念である。今後も、高齢者の「できること」を守り、さらに広げていくことで、生活の質と社会参加を高め、結果として健康寿命の延伸へつなげていく所存である。

地域全体の健康を支える 社会的インフラとしての役割を果たしていく

中伊豆リハビリテーションセンター地域貢献室の取り組みは、従来の医療機関の枠を超えて、地域全体の健康を支える社会的インフラとしての役割を果たしている。病院という医療施設が、治療の場であると同時に、地域の健康づくりの拠点となることで、真の意味での地域包括ケアシステムの構築に貢献できると考える。今後も、地域のニーズを的確に把握し、専門性を活かした支援活動を継続・発展させていくことで、住民の皆様が健康で生き生きと暮らせる地域社会の実現に尽力していきたい。